

すぐに わかる えびののこつ
いっき わかい えびのんこつ



た かん 田の神さあ



すえながらくなかすえなが た かん のうみがた
末永地区中末永の田の神さあ (農民型)

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

もくじ
目次

1. 田の神さあって何？ . . . 1
2. えびので一番古い田の神さあは？ . . . 2
3. 田の神さあはえびのに何体あるの？ . . . 3
 - 【農民型（田の神舞型）】 . . . 4
 - 【神官型（神像型）】 . . . 5
 - 【地蔵型（仏像型）】 . . . 6
 - 【自然石型】 . . . 7
4. 霧島山と田の神さあのつながりって何？ . . . 8
5. 田の神構・回り田の神って何？ . . . 11
6. おっとい田の神って何？ . . . 13
7. 田の神舞ってどんな舞？ . . . 15
8. 田の神さあのことをもっと知ろう！ . . . 17
9. えびの市のマスコットキャラクター「みなほ」です！
. . . 19

1. 田の神さあつて何？



田の神の信仰は全国的な民俗行事として

農村に浸透しています。

伝承によるとこの田の神は、冬は山の神

となり、春は里におりて田の神となって田ん

ぼを守り、農作物の豊作をもたらしてくれる

と信じられています。秋、収穫が終わると、

また、山に帰っていき、山の神になるといわれ
ています。

参考文献：『ひむか歴史ロマン街道形成推進事業調査報告書 田の神さあ』P5

(1)山の神→この山の神は、田の神となる神で、きこりや
猟師のための山の神ではないといわれます。





いちばんふる た かん
2. えびので一番古い田の神さあは？



なかしまちく しんかんがた
中島地区 (神官型)

かくとう なかしま
加久藤の中島

ちく しんかん
地区にある神官

がた きょうほう
型で、享保9

ねん (1724年)

こんりゅう
建立のものです。

参考文献：『ふるさと散歩 No.15 (広報えびの)』

にばんめ ふる
二番目に古い

た かん
田の神さあは、

まさき なかうちたてち
真幸の中内豎地

く しんかんがた
区にある神官型

きょうほう ねん
で、享保10年

(1725年)



なかうちたてちく しんかんがた
中内豎地区 (神官型)

こんりゅう
建立のものです。

参考文献：『むむか歴史口マン街道形成推進事業調査報告書 田の神さあ』P32



3. 田の神さあは
えびのなんたいに何体あるの？



みなみおかまつちく のうみんがた
南岡松地区（農民型）

えびのには、約150体ある
といわれています。

広い田んぼを一目で見渡せる

位置に座らせ、豊作を約束する

神さまとして信仰されている田の神像。どの田

の神さあも個性があり、同じ型ではありません。

大きくわけると、「農民型」「神官型」「地蔵型」

「自然石」の4つにわけられます。

参考文献 史談会誌『えびの第42号』P32



さかもとちく しんかんがた
坂元地区（神官型）



のうみんがた 【農民型 (田の神舞型)】

へいきんてき すがた かぶ
平均的な姿は、シキを被
(2)

みぎて
り、右手にメシゲ (しゃもじ)

ひだりて わん も
左手に腕を持っています。キ

も
ネやスリコギを持つものや、

せ お むね
ワラツトを背負ったり胸にさげているものもあ
(3)
ります。

のうみんがた おお み た
えびのでは農民型が多く見られます。なお、田

かんまいがた しんしよく まつり ま すがた うつ
の神舞型は神職が祭りで舞っている姿を写
と
し取ったものとされています。

参考文献：『ひむか歴史ロマン街道形成推進事業調査報告書 田の神さあ』P6

(2)シキ→^{こしき}甑 という^{むしき}蒸器の^{そこ}底に^し敷く^{しみもの}ワラの敷物

(3)ワラツト→^{いな}稲わらで^あ編んで^{つく}作った^い入れもの



なかほらだちく (のうみんがた)
中原田地区 (農民型)

※現在は資料館内にあります



にしうわえちく (のうみんがた)
西上江地区 (農民型)



みなみほらだちく (のうみんがた)
南原田地区 (農民型)



しんかんがた 【神官型 (神像型)】

こしか がた ざぞうがた しんかん
腰掛け型か座像型で、神官

ふくそう いかんそくたい
の服装。衣冠束帯、あるいは
(4)

かりぎぬ りょうて しゃく も
狩衣などで、両手に笏を持つ
(5)



りょうてしゃく も りょうて
た両手笏持ちや両手

わぐみ
輪組があります。

(4) 衣冠束帯→公家の正装をいう。

(5) 狩衣→平安時代の公家の常用略服。(参考文献/広辞苑, 第5版)

参考文献『ひむか歴史ロマン街道形成推進事業調査報告書 田の神さあ』P6

かた こばやしし みやこのじょうし ふる
この型は、小林市から都城市にかけて古い

ねんだい たすうぶんぶ きりしまやま
年代のものが多数分布しています。霧島山の

ふもと きりしましんこう ちゅうしん
麓にあるえびのは、霧島信仰を中心にして

しんかんがた た かみ せいりつ おも
神官型の田の神が成立したのと思われまます。

参考文献：資料館パンフレット『田の神さあ』P6



つるちく しんかんがた
水流地区 (神官型)



きょうまちむかえちく しんかんがた
京町向江地区 (神官型)



みなみしやうみょうじちく しんかんがた
南昌明寺地区 (神官型)



ひがしながえうらちく しんかんがた
東長江浦地区 (神官型)



じぞうがた ぶつぞうがた 【地蔵型 (仏像型)】

じぞうがた ぞう べつ ぶつぞうがた たびぞうがた そうしよくがた
地蔵型の像は、別に仏像型・旅僧型・僧職型と

よ
も呼ばれています。

かた はっしょう ち さつまちほう
この型の発祥の地は薩摩地方

ちょうし び もつと
でさつま町紫尾のものが最も

ふる ほうえい ねん ねん
古く、宝永2年（1705年）

こんりゅう さつまはんとう こくぶし
の建立で、薩摩半島や国分市に

おお そんざい
多く存在しています。

参考文献 史談会誌『えびの第42号』P43



いのまちちく じぞうがた
飯野町地区 (地蔵型)





しぜんせきがた 【自然石型】

た かみ せきぞう つく いぜん ごこくほうじょう
田の神の石像が作られる以前にも、五穀豊穰

いの た かみしんこう そんざい
を祈る田の神信仰は存在していました。そのシ

んボルとして、しゃじ うじがみ ほか おお えのき
ンボルとして、社寺や氏神の他にも大きな榎や

むく き かたち よ しぜん いし た
棕の木であったり、形の良自然の石を立てたり

して、それらを田の神として祀ったといわれています。

また、ふつう いし かたまり まちが
また、普通の石の塊と間違われまいようずつ

あと いちぶ しぜんせきせき た かみぞう た
と後になって、一部の自然石の田の神像には、「田

かみ もじ かお え か い
の神」と文字をいれたり、顔の絵を書き入れたり

くべつ みう
して区別しているものも見受けられます。

参考文献 史談会誌『えびの第42号』P44



くりしたちく しぜんせきがた
栗下地区 (自然石型)



すぎづるちく しぜんせきがた
杉水流地区 (自然石型)



まつばらちく しぜんせきがた
松原地区 (自然石型)



きりしまやま た かん なに
4. 霧島山と田の神さあのつながりって何？

きりしまやま ふんか く かえ
霧島山はこれまで噴火を繰り返してきました

きりしまやま かずおお ふんか なか とく
た。その霧島山の数多い噴火の中で、特に

だいふんか おお ひがい きょうほう
大噴火で大きな被害をあたえたのが、享保

がんねん ねん よくにねん ねん
元年（1716年）と翌二年（1717年）の

ふんか
噴火でした。



ふんか たはた こうはいどしゃ まいぼつ
この噴火により、田畑が降灰土砂で埋没し、

じんば ししつ じんじゃ ぶつじ しょうしつ
人馬の死失、また神社や仏寺も焼失したよう

い
であると言われていいます。参考文献 史談会誌『えびの第24』P4



しんもえだけふんか さつえい
新燃岳噴火（撮影：2011年1月27日）

こうしたことから霧島山の噴火は山麓の人

びとにとって恐怖でした。

享保噴火の被害の中心地の

小林市・高原町・都城市

などに神官型の田の神石像が多く、宮崎県内で

最古(享保5年、1720年)の神官型は小林市



小林市真方新田場(神官型)

宮崎県内で最古の神官型

真方にあります。

神官型が誕生した理由は、

噴火を繰り返す霧島山の荒ぶ

る神に祈り、噴火を鎮めて、稲

の豊作をもたらしてくれるよう祈祷する神官の

姿に、人々の願いを託したものだと考えられます。

※えびの市で一番古い田の神さあは、中島地区の神官型で享保9年(1724年)に建立

されたものです。(P2に掲載)



じだい つく た かん おお
この時代に作られた田の神さあの多くが

きりしまやま む あ あんち
霧島山に向き合うように安置されています。



なかうちたてちく しんかんがた
中内堅地区（神官型）

かごしまけん ちか みやこのじょう のうみんがた
鹿児島県に近い都城やえびのに農民型が

おお きりしまやま ふんか お つ あんえい
多くなるのは、霧島山の噴火が落ち着いた安永

ねん ねん ごろ
6年（1777年）頃からとのことです。

参考文献 「市民講座えびの学第5回田の神さあ編資料」上谷川則男/資料作成 P2～3



ゆだちく のうみんがた
湯田地区（農民型）



だいまようじちく のうみんがた
大明司地区（農民型）



しらとりちく のうみんがた
白鳥地区（農民型）



5. 田の神講・回り田の神って何？

薩摩藩では年貢の取り立てが厳しく、生産した

米の9割を年貢に取られていたとも言われ、農民

は重税で苦しい生活

を強いられていました。



楽しみのない当時の農民に役人が自発的に田

の神像を作らせ、田の神講ではその日に限り

(6)



無礼講を許

農民たちの

不満を和らげ生産意欲をかき

たてたのではないかと考え

られています。



下大河平地区（農民型）

昔から田の神講は続いて来たが、
現在は形式だけで、花を供える
程度になったとのことです。

(6)田の神講をえびのでは「タノカンコ」と言います。

こうせい た かんこう のうか まいとしまわ さいじ
後世になり、田の神講は農家を毎年回る祭事に

も はこ こがた た かもぞう つく
なって、持ち運びのできる小型の田の神像も作ら
れるようになりました。

こがた た かもぞう ねんこうたい つぎ
このように小型の田の神像を1年交替で次の

ざもと まわ さいじ まわ た かん
座元へ回していく祭事を「回り田の神」といま
す。

げんざい た かんこう まわ た かん さいじ
現在では、「田の神講」「回り田の神」の祭事を

おこな ところ すく
行う所も少なくなってきました。

参考文献 史談会誌『えびの第42号』P50



うえうらちく のうみんがた
上浦地区（農民型）

さかやまちく まわ た
坂山地区の回り田の
かみ 神だったものを昭和
しょうわ
54年に現在地に移し
ねん げんざいち うつ
現在はしていないと
げんざい
のことです。



にしかわきたちく のうみんがた
西川北地区（農民型）

しょうわ ねんだいくらい まわ
昭和50年代位まで回
り田の神をしていた
た かみ
が現在はしていない
げんざい
のことです。



うえしまうちちく のうみんがた
上島内地区（農民型）

げんざい まわ た かみ
現在も、回り田の神
として当番の家を回
り祭りをしてい
とうばん いえ まわ
り祭りをしていると
まつ
のことです。

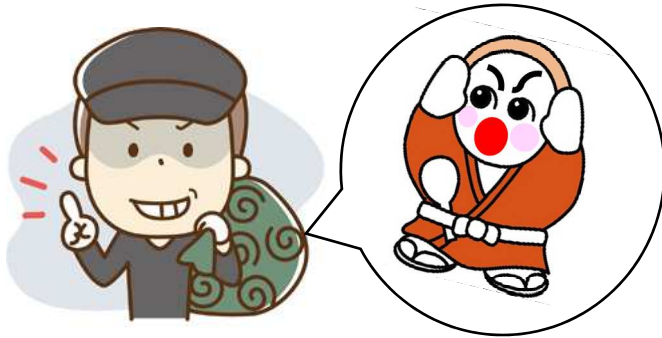


6. おっとい田の神って何？

明治の末頃までえびの市の各地に、タノカンオ

ットイ（田の神盗み）という風習がありました。

豊作の続く村の田の神像をオットツたり、新



しく開田した所に田

の神がないので、よそ

の田の神像をオットツてきたりしました。

よその村からこっそり盗まれるとき田の神は

「出稼ぎに行く、3年したら帰ってくる」という

手紙を残して村を出ていきます。

参考文献『ひむか歴史ロマン街道形成推進事業調査報告書 田の神さあ』P8



ぬす た かみぞう ねんいじょうお ふさく
盗んだ田の神像は3年以上置くと不作にな

ると言われて
いました。



ぬす しゅうらく ねん れい もみ
盗んだ集落では3年たったらお礼として粃

や焼酎・ニワトリなどをもち、羽織・袴の

せいそう みちがく てこ しゃんせん い
正装をし、道楽（太鼓・三味線）入りでにぎや

かに田の神像を返しに行きます。

ぬす むら ねん た かみぞう かえ
盗まれた村では3年ぶりの田の神像のお帰

りとあって、サカムケ（坂迎、酒迎）の準備

をして待ち、両村合同で盛大な酒盛りとなっ

たそうです。

参考文献『ひむか歴史口マン街道形成推進事業調査報告書 田の神さあ』P8





7. 田の神舞ってどんな舞？

霧島神楽には五穀豊穰を祈願して始められ

たとえられる田の神舞が登場します。

えびの市の水流神楽（水流の菅原神社）と馬

関田神楽（西川北の菅原神社、柳水流の幣田

神社）でも番付の一つとして舞われています。



幣田神社の「田の神舞」では、真っ白に塗った

神面をかぶり、装束に身をつつんだ田の神が、

笛・太鼓の音にあわせて舞いますが、途中こっけ

いな口上を述べて観衆とのかけあいをし、

観衆を笑いの渦にまきこみます。



つるかぐら たかんめ しほうはっぽう
 水流神楽の「田の神舞」では、四方八方おの
 のうち りょうち とくい ばめん はら
 れの農地（領地）という得意な場面、腹いっぱ
 た たくわ こっけい ばめん こうだいじん
 い食べ蓄えようとする滑稽な場面、皇大神にお
 (7)
 れい もう けんきよ ばめんとう ひょうげん
 礼を申し上げる謙虚な場面等を表現していま
 す。

参考文献『広報えびの』平成31年2月号P6~7

(7) 皇大神→伊勢神宮の天照大御神



つるかぐら
 水流神楽



8. 田の神さあのことをもっと知ろう！

田の神は聖的な神仏ではなく、庶民的な神仏
 です。田の神は汚しても転がしても決してた
 らないやさしい神であり、盗まれて他所へ連れ
 てゆかれても不平も言わず、行った先々で田ん
 ぼを守ってくれます。

参考文献『ひむか歴史ロマン街道形成推進事業調査報告書 田の神さあ』P6



昌明寺地区 (農民型)

大正時代「おとつて」持って来て、現在の所の100mほど下の畑の所にあったとのこと
 です。



中浦地区 (農民型)

昭和8年頃から西長江浦の人達に「おとつられ」たらしい。
 西長江浦の人達は粳十俵位を集めて、酒と粳を持って返しに行ったとのこと
 です。



末永地区 (農民型)

この田の神は度々「おとつられ」ていたの
 ことです。

た かん 田の神さあは、こ どもたちのあそ びあいて 相手でもあ
 ります。ままごとあそ びあいて 相手としてりよう 利用され、
 とうぶ 頭部でよもぎのは つ 葉を搗いたり、かた くぼ 肩の窪みにこめが
 わりのすな やさいが 野菜代わりのくさばな い 草花を入れてあそ びまし
 た。それでもたたらないやさしいかみ 神さまです。

参考文献『ひむか歴史ロマン街道形成推進事業調査報告書 田の神さあ』P7



だいまようじちく のうみんがた
大明司地区（農民型）

この田の神は 頭の上でよもぎを搗いてあそ びあいて遊んだということで、カッパのお皿みたいに凹んでしまったとのこと。

た かん 田の神さあはいま むかし か ひとびと 親
 しまれています。こころ のよりどころでもあるた
 かん 神さあはこれからもやさしくみまも 見守ってくれるこ
 とでしょう。

9. えびの市の
マスコットキャラクター
「みなほ」です！



「みなほ」ちゃんは、えびの市をはじめ

みなみきゅうしゅうかくち てんざい た まも ほうさく
南九州各地に点在する、田を守り豊作を

もたらすという「田の神さあ」をモチーフに
して生まれました。

「みなほ」の名前には、「みんなの稲穂」

「みんなほがらかに」の

意味がこめられています。

「みなほ」ちゃんの
モデルはもちろんえびの

の田の神さあです。



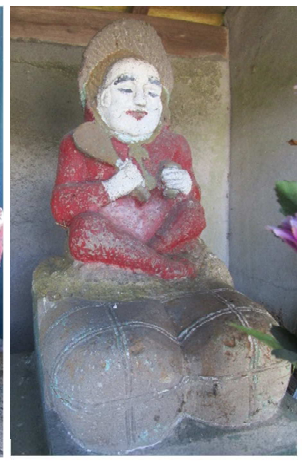
モデルとなった田の神さあ
なかはらだちく のうみがた
中原田地区（農民型）
※現在は資料館内にあります



なかうわえ ちく のうみんがた
中上江地区 (農民型)



いのふもとちく のうみんがた
飯野麓地区 (農民型)



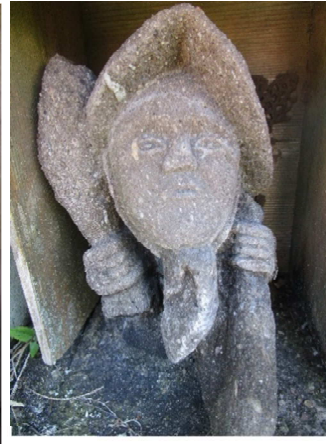
だいみょうじちく のうみんがた
大明司地区 (農民型)



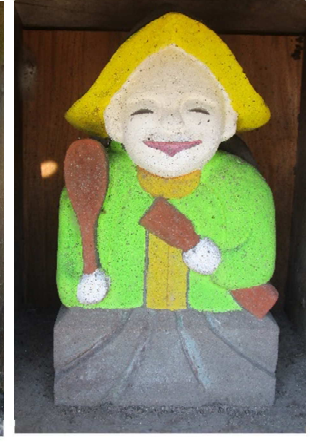
すぎづるちく のうみんがた
杉水流地区 (農民型)



したおこびらちく のうみんがた
下大河平地区 (農民型)



つるちく のうみんがた
水流地区 (農民型)



にしかわきたちく のうみんがた
西川北地区 (農民型)



ながやまちく しぜんせきがた
永山地区 (自然石型)



やなぎづるちく しんかんがた
柳水流地区 (神官型)



おかもとちく しんかんがた
岡元地区 (神官型)



みなさんも、みぢか た かん あ い
身近にある田の神さまに会いに行きま
せんか。

れきし じんぞく しりょうかん た かん たい けいさい
歴史民俗資料館には田の神さま 50体を掲載したQR
コード付きの「田の神さま MAP」もあります。

<参考文献>

○書籍

- ・著者：青山幹雄/解説：渡辺一弘 書名：『宮崎の田の神像』 発行所：鉦脈社
発行年：1997年2月
- ・著者：小野重朗 書名：『田の神サア百体』
出版社：西日本新聞社 発行年：2001年1月
- ・著者：亀澤轟幸 書名：史談会『えびの42号』 発行年：2008年5月
発行者：えびの市史談会
- ・著者：歴史民俗資料館 編 書名：『ひむか歴史ロマン街道形成推進事業調査報告書
田の神さあ』 発行者：えびの市教育委員会
発行年：2002年3月

○えびの市歴史民俗資料館 館内パンフレット

- ・「田の神さあ」

○その他（冊子など）

- ・『広報えびの』 発行：えびの市 2019年2月号
- ・ふるさと散歩 No.15（広報えびの2000年1月号） 田の神さあ
発行：えびの市
- ・「市民講座えびの学第5回田の神さあ編資料」上谷川則男/資料作成

○ウェブサイト

- ・えびの市役所「みなほ」の部屋 2021.4.16 検索
<https://www.city.ebino.lg.jp/display.php?cont=110426164725>

発行/2021年5月

し れ き し み ん ぞ く し り ょ う か ん
えびの市歴史民俗資料館

〒889-4311 宮崎県えびの市大字大明司2-146-2 TEL/FAX 0984-35-3144



ノカイドウ^{じせいち}自生地 (国指定天然記念物^{くにしていてんねんきねんぶつ}) 所在地: えびの高原^{しよざいち こうげん}